

# 通信

NO. 99  
2021年4月号

## ビジネス総研株式会社

福岡市博多区博多駅前4丁目  
33番11-702号  
☎092-409-4177

### 今月のスケッチ

ふじ 2021.4



21.4  
ふじ 信明

今年は、庭の春が急ぎ足で通り過ぎるような気がする。

例年だと4月末から5月にかけて開花していたように思っていた藤が、もう開花している。

スタ  
コラ

## 良い会社か、 そうでないか

森本信明

久しぶりに会った友人からこのスタコラについて聞かれ、彼からある理論について質問を受

けました。

その理論は私が30年前に発見し、周囲に吹聴していた「良い会社とは」の理論のことです。

「良い会社」とは何でしょうか。利益・継続性・顧客満足・社会貢献・福利厚生・社員の自己実現、いろいろな考え方がさまざまな指標があり、誰もが納得できる答えを出すことはなかなか困難です。

私はこの問いに対して一つの答えを持っていました。

まず自分の大切な人を思い浮かべます。ただし、恋人や配偶者、両親や子供以外で、学生の頃からの友人や、いつもお小遣いをねだる可愛い甥っ子や姪っ子、これまでの人生でお世話になった方、ご存命でなければそのご息などが理想的です。

その大切な人が求職の相談をあなたにした際に、あなたがその会社を薦めるのならば、その会社は間違いなく「良い会社」です。

自分が勤めている会社を推薦できるのであれば、あなたは「良い会社」で働いています。

大切な人に「仕事を探してるんだったらうちの会社に来いよ」と言えるのならば、悪い会社のわけがありません。自信を持ってそう言えないのなら何らかの問題が潜んでいそうです。

もしも「良い会社」にしたい、どうすれば「良い会社」にできるだろうかと迷った際には、どうすれば大切な人を誘える会社になるだろうか、というアプ

## 2021シュウカツ支援 無料セミナー 日程を変更しました。

日時：令和3年5月17日  
(月) 13~16時 (3時間)

会場：リファレンスはかた近代ビル 103号室

内容：就活の現状と採用試験  
の特徴、個別面接・集  
団討論面接の体験と  
意見交換・アドバイス

共催：ビジネス総研株式会社、  
株式会社ライズ

ローチを考えてみよう、という理論です。

自分が経営する会社の株主総会に、高校時代からの友人3人を毎年招待する社長がいました。

その会社は彼にとって「良い会社」だったのだろうと思います。

これはいろんなことに応用できます。

「ウチに泊まりにおいでよ」あなたは今のマイホームを「良い家」だと思っています。

「このオムライス食べてみて」いつもよりも格段に美味しいオムライスができたのかもしれない。

さて、このコラムが「良いコラム」かどうか、私とその友人に読むことを積極的に勧めるかどうかにかかっています。

んっ、ちょっと違うか。話が逆ですね。



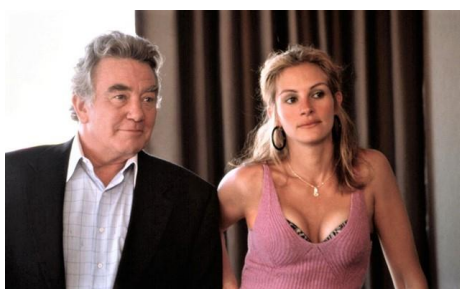
Relationship & Partnership  
ビジネス総研



映画大好きの山ちゃん、毎回、自分の言葉で執筆します。

## エリン・フロコビッチ

監督: スティーヴン・ソダーバーグ  
 出演: ジュリア・ロバーツ  
 アルバート・フィニー  
 アーロン・エッカート



無職でシングルマザーの女性が、大企業を相手に3億3,300万ドルの和解金を手にした実在の破天荒な活躍を描く。

3人の子供をもつエリン(J・ロバーツ)は、職探しで面接の帰りに追突事故に合い弁護士事務所を訪ね裁判へ…

その切っ掛けで強引に弁護士事務所に雇ってもらう事になる。

ある日書類の整理中に、不動産の案件に健康診断の添付書類を見つけ疑問を抱く。

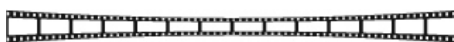
現地に入って調査してみると、PG&E社から6価クロムの汚染水によって、工場周辺の地域住民の身体への障害が判明する…

原告団が勝ち取った和解金は、アメリカ史上最高額であり、PG&E社の圧縮工場では、6価クロムの使用を中止。地下水の汚染を防ぐために貯水池は、全て防水加工された。

現在エリンと弁護士・エドは、

PG&E社のケトルマン工場の調停をはじめ、7つの訴訟に奔走している…と最後に解説が流れる。

一度でなく二度観たが見どころ満載で、米アカデミー賞他数々の女優賞を受賞した、ジュリア・ロバーツの演技と魅力に脱帽でした。



### くまさんの コンサル日誌



似顔絵作家の小西みどりさんに描いていただきました。

## 立意主義は国の根幹 検証②

### 学術会議会員任命拒否

気象学者の増田善信氏が、菅首相による学術会議会員候補6名の任命拒否の撤回を求めて、オンライン署名を個人的に立ち上げてすすめている。

この署名は、2月末から初めて、わずか1カ月で45000人を超えている。

増田氏は、先の大戦で海軍少尉として、沖縄への『特攻』兵士を送り出す際、「神風が吹くから必ず勝つ」というスローガンが叫ばれていたが、気象の専門家として「神風など吹かないとわかっていたが口に出せませんでした。」と語っている。

この自身の体験から、今回の学術会議会員の任命拒否が、「戦争法に反対した6人の研究者」を「政府に都合が悪いと排除」したもので、「時の政権によって学問の自由や言論の自由が脅かされることを許してはならない」とこの署名をはじめたもの。

菅首相による学術会議会員の任命拒否事件の真相について、「学問の自由が危ない—日本学術会議問題の真相」(晶文社)は、日本学術会議の元会員をはじめ13人の学者・研究者が文を寄せ、示すことができない菅首相の“拒否理由”の本質を、わかりやすく暴いている。

今回の増田氏のオンライン署名活動には、全面的な賛意を送りたい。



### 編集後記

“コロナワクチン”のクーポン券が送られてきた。

さっそくかかり付けの医院に電話したら、すでに100名近くの方が予約しているという。

いつから接種できるのかと聞くと「まだ不明です」との返事。「いつワクチンが届くのか、どれくらい割り当てがあるのかも分からない」と。医療の現場は大変だと思う。

Relationship & Partnership 総研  
 ビジネス総研  
<https://www.b-souken.com>

